

特定非営利活動法人
日本健康太極拳協会公認

楊名時八段錦・太極拳
神奈川県支部

浜太極

師家・楊名時先生 揮毫

第46号

編集・発行人 神奈川県支部 支部長 結城 靖博

2025年2月15日発行

年頭の御挨拶 楊名時師家生誕 100 年を迎えて

神奈川県支部長 結城 靖博

楊名時太極拳の特筆すべき点の一つは「競わず、争わず」ですね。そして、私たちが掲げる第一の目標は「健康・友好・平和」です。

ところが今、世の中には「争い」と「分断」が急速に拡大しているように見えます。

こうした時代に、師家の生誕 100 年を迎えることには、なにか大きな意味（あるいは意義）が孕んでいると思うのです。

先頃、あることを調べたくて手元にある師家の著書 10 冊ほどを紐解いていて、あらためて認識したことがあります。

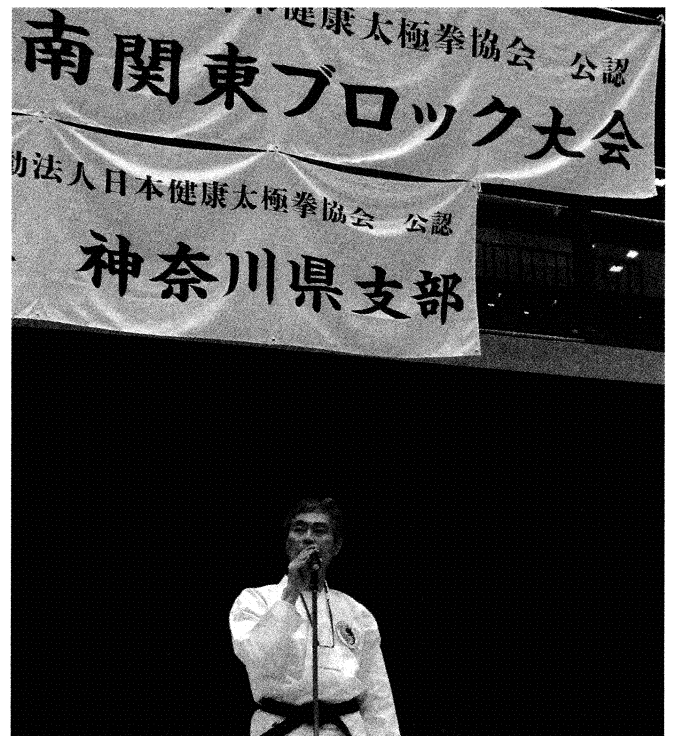
師家は生前著書の中で、繰り返し「健康・友好・和平」という言葉を綴っています。「平和」ではなく「和平」と。ただ、たいていはその後に「日本語では『平和』ですね」という旨の但し書きが加えられていますが。

でも、と、ふと思ったのです。「和平」は日本語にもあります。そして日本語では「平和」は状態を、「和平」は行為を示す言葉です。

「自由」が与えられるものではなく自分自身でつかみ取るもの——ということはいく言われますが、思えば「平和」も、それを求める私たち自身の不断の努力が必要です。

そう考えると、「和平」も良いな、などと思ったりもするのですが……細かいことを言うと、現在、『指導者のびき書』の五則では「和平」に、協会本部HPでは「平和」となっています。

結局、「平和を求める思い」に変わりはないのでどちらでもいいのですが、今の時代だからこそ、「和平



(撮影：中島幹夫)

を得るにはたゆまぬ努力が必要」ということは痛感しますね。

いずれにしても、こうしたスローガンを掲げる私たちは、自らに誇りを持っていいと思います。

そして、なぜ師家がこの言葉を大切にされたのか——それは師家の生涯と深くかかわっているのですが、そのことをあらためて理解する機会に恵まれるのが、この生誕 100 年の年だとも思います。

ぜひ皆さま、関連する行事に奮って参加していただければ幸いです。